

【表2】教育総務課の重点施策の評価と外部評価委員の点検・評価 ※推進状況など詳細は、HP などからご確認ください。

重点施策	主な実践項目	評価	外部評価委員の点検・評価（一部）
1 教育委員会の充実	1 教育委員会の活性化	4.0	可能な限り研修会や行事へ参加し、会議録等の情報を公開するなど評価する。また、運営、研修、委員への活動等、コロナ禍の中、適切に運営され、課題解決に努力されていた。
	2 教育情報の発信と収集		
2 学校教育環境の整備促進	1 学校施設等の計画的整備	4.0	各校の要望を精査し、教育環境の整備促進やバリアフリー化の把握など、実行に向けて関係課と連携し協議を行っているとのこと今後期待する。
	2 学校施設の整備		
3 垂水高校振興支援計画の推進	1 振興・支援策に基づく取組みの充実・拡大	3.0	垂水高校振興支援策として各種補助を実施している中、中学校訪問を行い、生徒保護者への周知及び教職員からの進路指導に繋がるよう情報発信を行っていることを、高く評価する。
4 学校教育と連携した学校給食の充実	1 学校給食の充実と食育の推進	4.0	相次ぐ食材費の高騰などで、現在の安心安全な給食や食育指導など維持できるのか不安があったが、給食費の一部支援で値上げはせずに維持する努力は評価する。

【表3】学校教育課の重点施策の評価と外部評価委員の点検・評価 ※推進状況など詳細は、HP などからご確認ください。

重点施策	主な実践項目	評価	外部評価委員の点検・評価（一部）
1 確かな学力を定着させる教育の推進	1 確かな学力の定着	3.0	タブレット端末を有効活用し、複式教育の充実など地域に合った授業改善を高く評価する。GIGA スクール構想により、全般的に向上しているようである。様々な努力の結果であり、デジタルの活用により、子どもたちの学習への興味が増しているのではないかと推察される。
	2 複式教育の充実		
	3 特別支援教育の充実		
2 GIGAスクール構想の推進	1 タブレット端末活用による授業力向上	4.0	GIGA スクールの推進が良い方向に進んでいると思う。様々な場面での活用が良い結果を生んでいる。ただ、SNSの活用やChatGPT等のAIツールは、使う本人次第で良いツールにも悪いツールにもなることを十分理解される必要もある。
	2 AIドリルを活用した個別最適な家庭学習の工夫		
	3 タブレット端末による遠隔学習等を通じた交流推進		
3 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	1 心の教育の充実	3.0	GIGA スクール構想によるタブレット端末の活用促進に伴い、日々変化が求められる心の教育について「心の天気」で異変があった場合などの対策の改善を行い、教員の負担やストレスなども考慮しながら、不登校の減少へ繋がれば幸いである。「SOSの出し方教室」など、家庭を巻き込んだ研修は良い取り組みだと思う。
	2 心に届く生徒指導の充実		
	3 人権教育の推進		
	4 体力・運動能力の向上と健康教育の充実		
4 信頼される学校づくりの推進	1 開かれた学校経営の充実	4.0	安全で信頼される学校づくりを、学校現場では学校管理職を含めた学校職員で取り組む体制を充実させ、地域の期待に応える学校を期待したい。学校の努力や成果を地域に発信し、地域が学校を信頼し、学校職員を教育の専門職とみなし、信頼関係を構築するために、学校管理職と教育委員会が連携して、効果を上げていってほしい。
	2 教職員の資質向上		
	3 服務規律の厳正確保		

重点施策推進状況の自己評価と外部評価

◆教育総務課

①重点施策

学校教育と連携した学校給食の充実

自己評価点 3.75

②取組具体例

学校給食の充実と食育の推進

学校給食の充実については、調理配送業務を委託している業者との連携を図りながら、日々の献立についてミーティングによる調理方法や工程の確認を行うとともに、全職員で細心の注意を払いながら、地元食材を積極的に活用したメニューによる安全・安心でおいしい給食の提供がなされた。また、食物アレルギー対策についても毎月メニューで確認し、保護者との連携を図りながら対応食の提供を行っており、事故等の発生はない。併せて、これまで同様、児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるための食に関する指導が、栄養教諭を中心としながら、全ての学校・全学級で実施され、食育の推進が図られた。また、コ

ナ禍における食材費の高騰等を受け、給食費の値上げを行わないため、給食費の一部支援を実施した。【表2】

◆学校教育課

①重点施策

GIGAスクール構想の推進

自己評価点 3.5

②取組具体例

タブレット端末活用による授業力向上

管理職部会・情報教育担当者部会に加え、自主研究団体による教職員の学びが深まり、各学校におけるタブレット端末を活用した授業改善が進み、児童生徒もタブレット端末を文房具の一部として活用している。この2年間はタブレットの積極的に活用することを重視してきたが、情報機器活用能力の高まりが見られるため、今後は、「発信」と「交流」をキーワードに、GIGAスクール構想を更に前進していく。【表3】

◆社会教育課

①重点施策

社会教育の充実

自己評価点 3.0

②取組具体例

家庭教育・成人教育の充実

家庭教育学級では、各学校とも講師派遣に係る市補助金を活用し、それぞれの学校で特色ある取組みがなされた。また、家庭教育支援に関する活動を整備・推進・調整する人材の養成を目的とし、家庭教育に関する幅広い知識やカウンセリング等の専門的な技能に関する研修会に参加することによって、家庭教育支援の充実を図ることができた。親の学びの教室では、大野自然学校で「親子サマーキャンプ」を開催し、親子で創作活動等を行い家族でふれあう機会を設けることができた。PTA活動では、子どもたちを取り巻くスマホ・タブレット・ゲーム等の利用環境や利用形態等が変わりつつある中で「スマホ・タブレット・ゲーム機等の利用環境や利用形態等が変わるルール」を市内の85%の家庭から

の意見を参考に市PTA連絡協議会で策定し、家庭でのルール作りに活用している。また、令和4年度は県P委嘱公開「肝付大会」が開催され、本市のPTA会員も参加した。【表4】

◆国体推進課

①重点施策

フェンシングのまちたるみず実現プロジェクトの実施

自己評価点 3.0

②取組具体例

企業版ふるさと納税制度の活用、垂水カップの開催

企業版ふるさと納税制度を活用して、フェンシング競技で使用する備品等を購入し競技環境整備を図った。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じて「第11回垂水カップフェンシング競技大会」を3年ぶり開催した。遠方は神奈川県の高校が参加するなど大会認知度は向上している。今後も中学生・高校生における競技力向上、また大学生・一般の選手における大会出場機会の創出と強化を目的に事業を継続させたい。【表5】